

2004、12、1

世界が尊敬した日本人

ハリウッドでトップに立った国際スター・早川雪洲

前坂 俊之

アメリカ人の2大魂といわれるメジャーリーグ野球 (MLB) とハリウッド映画。

昨年はイチローが八十四年ぶりに年間最多安打記録を更新して MLB の頂点に立ったが、ハリウッド映画百年余の中で日本人としてトップに立ったのは早川雪洲のみである。

昨年、「ラストサムライ」で渡辺謙がアカデミー賞助演男優賞候補になったが、早川は数多くのハリウッド映画に主演して、人気ナンバーワンとなり、一時期、『聖林(ハリウッド)の王者』と呼ばれた。

早川雪洲は明治二十二年(一八八九)八月、千葉県安房郡七浦村(現千倉町)で漁業網元の子として生まれた。

一七歳の時、千倉の沖合で米国客船「ダコタ号」(二万トン)が座礁、米国人船客を英語が得意だった雪洲が通訳して世話をした。これがきっかけで米国に渡り、明治四十二年七月、シカゴ大学に留学し、法制経済を学んで卒業。大正二年(一九一三)にロサンゼルスに遊びに行きリトル・トーキョーで芝居小屋に入った。

あまりに下手な芝居には強引に座長を口説き、自ら脚本、主演して徳富蘆花の『不如帰』を演じ大当たり。続いて「タイフーン」という芝居を作ったが、これが米映画界の大物プロデューサー、トーマス・インスの目にとまり、ハリウッド映画界入り。このころはサイレン(無声)映画全盛時代である。

次作の巨匠セシル・B・デミル監督「ザ・チート」(一九一五年)で雪洲はハリウッドでの地位を不動にした。

早川扮する日本人の金持ちプレイボーイが借金の形に女性に焼きゴテを当てるショッキングな内容。この役でそのエキゾチックさと強烈なセックス・アピールで一躍で女性

の人気アイドルとなった。

雪洲が現れると米女性ファンが何重のもとり囲み、水溜まりがあれば、女性たちがわれ先に着ている毛皮のコートを雪洲の前に敷き積めるといった人気ぶり。

当時、チャップリンが週給一万ドルについて、雪洲は八千ドルをとり、矢継ぎ早にハリウッドの巨匠や監督作品に出演した。二〇世紀最高の美男といわれたイタリア人俳優・ルドルフ・バレンチノを上回ってハリウッドの人気ナンバーワンに輝いた。

その莫大なギャラーで大正八年(一九一九)、ハリウッドの一角に東洋風の四階建ての大邸宅『グレンギヤリ城』を建て、盛大なパーティーを連日開いた。

当時、地元のカリフォルニア洲などで日本人移民を締め出す排斥運動や反日移民法がわき起こっていたため、雪洲は日本人をよく知ってもらいたいとの願いを込めて豪華なパーティーを開催し、チャップリンやセシル・B・デミル、ダグラス・フェアバンクスらハリウッドの名士が集った。

早川の王侯のような派手な生活ぶりはハリウッドでも群を抜き、伝説化していった。

反日移民法がさらに強くなった一九二二年に雪洲はハリウッドを去ったが、それまでにパラマウント映画や自己のプロダクションで合計22本のハリウッド映画を製作、主演した。

以後、ニューヨークで舞台を続け、ヨーロッパにわたりロンドン、パリで舞台や映画に活躍した。全盛期に世界の有名人が集うフランス・モンテカルロのカジノで一晩に500万円(現在では100億以上)も負けてニュースになったこともあった。

第二次大戦後、雪洲は日本を舞台に日本映画にも登場し、再びハリウッドからお呼びがかかり復活した。

アカデミー賞を総なめした『戦場にかける橋』(一九五八)では助演男優賞候補にもなった。昭和四十八年(一九七三)十一月、八十七歳で亡くなったが、大正時代から約半世紀以上にわたり、米国、英国、フランス、ドイツ映画などに約70本と日本映画20本以上に主演した日本で唯一の文字通り国際スターであった。

しかし、早川は日本の映画史からは忘れられた国際スターであった。

雪洲が活躍したハリウッド映画は日本では国辱映画、反日映画として上映禁止となったり、大部分は見る事が出来なかった。

早川の演技力も表情のない大根役者と、日本では低評価で、外国では評価は真っ二つ。日米対立と戦争の歴史の中で翻弄された、まさしく悲劇のスターであった。

前坂 俊之(静岡県立大学国際関係学部教授)